

Discovery社、Imperva Data Security Fabricでパブリッククラウド内のデータコンプライアンスに取り組む

概要

Discovery社は、刺激的かつ情報豊かな内容のノンフィクション番組を届けるグローバル企業であり、多くの視聴者を楽しませています。オリジナル番組の配信は年間8000時間以上にのぼり、どのジャンルも世界中で愛されているため、Discovery社はノンフィクション番組と言うカテゴリーを率いる存在であると言っても過言ではありません。Discovery社が提供している番組は、ディスカバリーチャンネル、アニマルプラネット、サイエンスチャンネル、TLC、フードネットワーク、HGTV、トラベルチャンネルなどがあり、220の国と地域、50の言語で視聴可能です。

課題

幅広い人気があるということは、顧客や会社に関わる膨大なデジタルデータを管理しながらコンプライアンス規制や監査に対応しなければならないことを意味します。Discovery社では、監査への効率的な対処を実現するため、データ資産をより明確に可視化する必要がありました。

このような課題には、いくつかの要因がありました。これについて、情報セキュリティ、エンジニアリング部門の責任者を務めるMichael Gillenwalters氏は以下のように述べています。「2018年は合併が行われており、人事異動も相次ぎました。古いデータの多くがリファクタリングされず、新しいツールでアクセスすることができなかつたのです」。

Discovery社はまず、ImpervaのSecureSphereによって対処すべきスキーマやセキュリティ制御を特定したのち、必要に応じてそれらのセキュリティ制御を採用しました。SecureSphereを利用したことでコンプライアンス対応に求められる可視性が得られ、データ検出のスキューミングができるようになりました。

Discovery社で情報セキュリティ、アーキテクチャ、エンジニアリング部門の本部長を務めるLee Ryan氏は「SecureSphereの『データアクティビティ監視』機能によって、データをより詳細なレベルで把握できるようになりました。これは、以前ツールでは不可能だったことです。データはあっても、コンプライアンスに利用することは困難でした」と述べています。

導入

コンプライアンス要件の適用範囲をクラウドに拡大させるため、Discovery社は、ImpervaとそのプラチナパートナーであるGuidePoint Security社（組織内のサイバーリスクを最小限に抑えるセキュリティコンサルタント企業）のサポートを受けました。



「SecureSphereの『データアクティビティ監視』機能によって、データをより詳細なレベルで把握できるようになりました」

Michael Gillenwalters氏
情報セキュリティ
エンジニアリング部門
部長

「SOX法に準拠した環境を迅速に作り上げる必要がありました。これに投資することで、求めていたROIが実現したのです」

Lee Ryan氏
情報セキュリティ
アーキテクチャ エンジニアリング部門
本部長

Discovery社はよりクラウドネイティブなインフラに拡張しており、オンプレミスとクラウドネイティブの両方の技術にコンプライアンス要件を適用させる必要がありました。

このなかで大きな課題となったのが、データを可視化し、一元的に管理することです。Gillenwalters氏はこれに関して「クラウドへの移行作業を進めるなかでも、データをきちんと把握すると同時に、データセキュリティやコンプライアンス要件を満たしている必要があります。弊社の業務では、重要なシステムで大量のデータを取り扱います。私たちはコンプライアンス要件を満たすための準備として、クラウド上でデータを発見しやすい環境を作りたいと考えていました。かつて利用していたImperva社のインフラでは不可能でしたが、Imperva Data Security Fabricのプラットフォームはクラウドのデータ環境に適用できるものでした」とコメントしています。

2021年2月、Discovery社はImperva Data Security Fabricプラットフォームを導入し、SecureSphereインフラストラクチャを増強するとともに、コンプライアンスへの適用に向けて、クラウドベースのデータソースを可視化しました。「2020年末にサーベンス・オクスリー法(SOX)の要求があり、SOXを対象としたインフラ内におけるすべてのデータベースアクセスをする必要がありました」とGillenwalters氏は説明します。「クラウドソースからデータを取り込むPythonスクリプトをカスタムで何とか構築しましたが、非常に骨の折れる作業でした」一方、Imperva Data Security Fabricでは、オンプレミスとクラウドのデータソース全体で統一されたビューを複数年単位で表示することができます。Gillenwalters氏はさらに、こう述べています。「Imperva Data Security Fabricを利用していなければ、クラウドや非クラウドベースの全ソースから取引データを取り込み、分析するために、カスタムで構築したソリューションの運用・サポートを維持し続けなければならなかったはずです」。

Discovery社では、Imperva Data Security Fabricを展開するにあたって、多数の顧客がアプリケーションを利用できるよう、各種データベースを短期間で搭載する必要がありました。これを可能にしたのが、技術文書の活用と利害関係者による協力です。「初期の段階で、適切な人材や技術的なリソースを確保することが重要です」とRyan氏は述べます。「つまり、ビジネスパートナーやデータベース管理者(DBA)、そしてアプリケーションとデータベースに詳しい人材を巻き込むのです」。

結果

コンプライアンス要件を満たすための取り組みのなかで、Discovery社はImperva Data Security Fabricを活用し、特に新たなAWS環境における可視性を実現することができました。

Imperva Data Security Fabricが提供する検出スキャンや、クラウドデータへのコンプライアンス要件の拡張を容易にする機能、効率的なコンソール管理によって、Discovery社は大幅な時間と労力を削減することができました。これは、カスタムメイドのソリューションを運用・サポートしながらデータ分析を行っていた時には不可能だったことです。Gillenwalters氏はこう述べています。「幸いなことに、自分が作成したつぎはぎのスクリプトを維持する必要はもうありません。今は、コンプライアンス要件に関するネイティブサポートを受けられているからです」。

Gillenwalters氏はまた、Discovery社がImpervaのサポートを選んだことは適切な判断だったと述べています。「SOX法を遵守することは決まっていたことでしたが、Imperva Data Security Fabricの導入によって、より迅速かつ容易にそれを実現することができました。これによって、求めていたROIを得ることが可能になったのです」。

「Imperva Data Security Fabricの利用を開始していなければ、カスタムで構築したソリューションを維持せざるを得ませんでした。その状態では、クラウドや非クラウドベースの全ソースから取引データを取り込み、分析するという作業に多くの時間が割かれていたことでしょう」

Michael Gillenwalters氏
情報セキュリティ
エンジニアリング部門
部長

Discovery 社と Imperva の今後について

Discovery 社と Imperva の将来的なビジョンはどういったものになるでしょうか。「私たちは、より大きなデータセキュリティプログラムの作成を考えています」と Gillenwalters 氏は述べています。「現段階では、コンプライアンス要件を満たしてレポートを提出するという、適切な行いができていると思います。しかし、単にレポートを提供するだけに留まらず、それ以上のことをしたいのです。つまり、すでに持っているツールを使ってプロセスを簡素化し、より高度なセキュリティ体制を実現したいと考えています。改善したいプロセスとしては、インシデント対応をはじめ、変更管理の大規模なメカニズムを介さずにポリシー違反を先取りする機能の作成などが挙げられます」。

Discovery 社は今後、ますます多くのファンを獲得していきます。その過程で生じる新たな規制やデータ保護の課題に対応するため、Imperva のサポートとともにセキュリティ戦略を展開する予定です。